



発行
平成28年9月30日

責任者
当別町民生児童委員協議会
会長 中谷 清

ゆとりっちとうべつ

民生委員・児童委員発
災害時一人も見逃さない運動

No.39



西当別子どもプレイハウス
子ども達の作品

当別町

民生児童委員協議会

七十周年を迎えて

会長 中谷 清



民生委員制度は、大正六年に岡山県の再生顧問制度に始まり昭和四年に「方面委員令二依ル方面委員ワ命令定メル所二依リ救護事務二関シ市町村才助ク」と規定される（北海道民生委員児童委員連盟（以下、道民連）情報誌より）。

このような経過をたどり、全国民生委員連盟は平成二十九年に創設百年迎えることとなり、各都道府県単位で一世紀の節目を盛大に祝う式典が予定されており、道民連も二十九年六月の記念式典に向け準備が進められております。

北海道は遅れること約三十年各市町村に民生委員制度が創設されたようです。当別町は昭和二十一年十二月時の村長、主幹が代表となり、地方委員が創設され、同年民生委員が任命される（町史より）。

又、民児協事務局の記録によると創設当時は委員数も少なく、任期も様々で五年後当りから現在の形に近くなったように思われます。

多くの先輩諸氏のご苦労と努力のもとに七十年の歴史が刻まれ、今後八十年百年と受け継がれて行くであろう歴史の一ページを担って活動しております。

先輩諸氏が大切にしてこられた民生委員魂を受け継ぎ、気持ちを新たに地域に愛され、身近で「心の会話」が出来る様、資質の向上を図って参ります。

今後共、民児協にご理解を賜りますようお願い申し上げます。



当別町民生児童委員協議会70周年特別号 その1

本町における民生児童委員協議会の歴史をたどると昭和20年の終戦後から始まり今年で70周年を迎える事となりました。その節目の年を記念し特別号 その1として、歴代の広報委員長に「当時の思い出」を語っていただきました。又来年3月には特別号その2を発行予定です。

初代広報委員長

岩部 明



「民児協だより」を発刊するのは民生児童委員活動の実態を多くの方々に広く理解していただく事は勿論、各委員の仕事の記録を通じて反省確認し、自己意識を高めるためにも必要なことではなからうか、との思いで広報誌発刊について、僭越ながら委員会に提案し了承され、広報委員を選出し編集作業を進める事になりました。

民生委員の仕事は要援護世帯の一人一人の問題に介入する事が多く相談内容等は一切他言してはならない守秘義務があり、掲載内容には多くの制約があり、それらを整理して創刊号を平成九年九月に表題を「ゆとりつちとうべつ」と命名(全戸配布)発刊し、以後各委員からの原稿協力を得ながら編集委員会は読みやすくレイアウトし充実した広報誌となりました。

なお当時の武井課長から多くのご配慮を頂き深く感謝し、このたびの七十周年記念を心からお祝い申し上げます。

二代目広報委員長

高橋 雄三



民生児童委員協議会創設七十周年、委員の皆様のご理解の無いボランティア活動に深く敬意を表します。

二十年程前、民生委員の活動を町民の方々に知って頂くという趣旨で広報誌の発刊が企画されました。初代の委員長さんは、この種の広報誌の発行には大変精通されていらつしやる方で、ただ従うのみでしたが、自分が委員長を務めた数年間は困惑の連続の日々で添えて、何とか職責を果たせたかなと思っております。

個人情報保護法などで活動が制約される時世ですが、悩める人々の「杖となり、柱になって」の活躍を期待しております。

三代目広報委員長

佐々木 達郎



民生委員二期六年は広報委員会

に所属。後半三年は前委員長退任後、私が委員の中で一番年嵩で唯一人男性と云う事で委員長職を引き受けたものの全く日々瘦せる思いでした。しかし各委員の豊富な経験と積極的な活動のお陰でなんとか無難に経過。只々感謝の思いでした。

三年間の委員長職をなんとか務め終え瘦せない内に辞任しましたが早いものでもう十余年。でも嬉しい事に今も元委員の皆さんから毎年欠かさず年賀状を頂戴しております。感謝です。

四代目広報委員長

千田 良子



当別町民生児童委員協議会七十年おめでとうございます。

平成九年に広報誌創刊号が発行され、当初の時から携わり、三代目委員長から広報委員長のたすきをわたされ、戸惑いましたが、他の委員がそれぞれ持ち味を存分に発揮して下さり、三年間、無事務めることが出来ました。

当時、原稿が届くと委員会は午前九時から午後四時までやり、発行まで七、八回の委員会を開いたものです。今、広報誌は進化して

いるように思います。広報委員の皆様のご活躍を期待します。

五代目広報委員長

畠山 貞一



懐かしいですね。ゆとりつちとうべつへの原稿書きとは……。

平成十三年十二月から三期九年間、民児委員として活動しましたが、それまで仕事一辺倒だった私にとつて、この上無い充実の日々でした。

民児委員の方々の福祉への姿勢教えられることが多く、退任後も変わることも無く付合ひ出来る仲間にも恵まれたこと、人生の宝を得た思いが致します。

戦後復興に多大な役割を荷つたであろう民児委員。今後は高齢化少子化の中で益々その重要性が求められることでしょう。

設立七十年を迎え、民児委員各位の活躍をご期待申し上げます。

「民生委員・児童委員100周年」
シンボルマーク

民生委員制度は、来年の平成29年に制度創設100周年を迎えます。
民生委員が兼ねている児童委員の制度も平成29年に制度創設70周年となります。

ずーっと一年生 ただ今勉強中

道内研修に
参加して

(北栄町) 冷川 裕美子



に密着した支援を行っています。幼児以外には個室が与えられ、図書室、体育館、心理相談室、親と子が一緒に生活するための親子訓練室等の設備も充実しています。明るく清潔で快適な環境でした。写真の中の子ども達の笑顔が、親代わりとなって、真摯に温かく寄り添っている職員の方々の姿を物語っているように思いました。

支援を必要としている方々に一人の隣人として、民生委員として何ができ、どう寄り添っていくべきか、改めて考えさせられた研修となりました。

六月十六日、十七日、十勝にある二施設を視察致しました。障がい者支援施設清水旭山学園は、広大な敷地に知的障がい者九十名の入所施設や通所ホーム、畑や作業所、近隣には高齢者介護施設等を有しています。生産活動を中心に障がい者の自立と社会参加を目指して幅広い支援を行っています。障がいの重度化、多様化、高齢化、家族との連携の難しさなど課題も多いというお話を伺いました。児童養護施設十勝学園は、孤児や虐待を受けている子どもを入所させ養育し、自立を支援しています。現在、幼児から十八歳までの三十三名を二十八名の職員が支えています。相談業務を主とした家庭支援センターやグループホームも設置し、地域



障がい者支援施設清水旭山学園での研修



児童養護施設十勝学園での研修

西当別地区会主催の
視察研修会に参加して
(高岡) 曾川 昭治



七月二十一日民協の定例会後に西当別地区会主催の視察研修会がありました。

研修先は北海道医療大学内にある薬用植物園で見学をしました。北海道医療大学薬学部准教授、薬用植物園々長、堀田 清さんにお話しを伺いました。自然の野や山には沢山の体に



北海道医療大学薬用植物園にて

良い薬草があり、野菜の中にも体に良い物が沢山あります。その知識を得て食物を活用する事で健康的な生活を送れますとの事でした。話しの中に薬草園を見学しました。四十分程、山を歩き色々な山菜(薬草)が沢山ありました。朝鮮人参・ウド・タラの芽・トリカブト・カタクリ・ヨモギ・アズキナ・ギョウジャニンニク・山ウド等の説明があり、毎年山の中の笹を部分的に刈り取っておくと来年は土中話しがありました。途中でギョウジャニンニクの実を食べました。実は葉の何倍もの濃厚な味がしました。

最後に薬草センターに入り、堀田先生が出版したばかりの「植物エネルギー」(定価千五百円)が届いており、参加された皆様がいちいち求めました。又、七月二十二日付北海道新聞朝刊に先生の記事が掲載されました。先生の本文を読んで当別の山にも色鮮やかな四季の花がある事を知りました。

嫁いで四十年。多い時は九人の大家族だった。昔はこの家もそんなもの。子供の成長に伴う巣立ちと義父母との悲しい別れ。夫と娘、息子との生活も十年余り。油断していた。頼りにしていた娘が嫁に行ったのだ。ほっとした気持ちと淋しい思いが交差する中、長年染みついた四人の生活から三人に切り替える日々が追われている。

ひとりごと

この一年は本当に次から次へといろいろな事があった。嬉しい事、悲しい事、切ない事、目まぐるしい日々。自分の体力の低下と、脳や目の衰えを目の当たりにする。これも「油断」。最初にくる眼の衰えは辛いが眼鏡という道具を使用する事で回復したと勘違いする。

さて、次にくるのは歯です。入れ歯を使用するのは眼鏡と違って大変。メンテナンスや、こちらの体調まで影響してくるのですから。身近な親の姿を見てきているはずなのに、人はそれぞれ「一」から学び直す。人間とはいつまでも学べるという事でしょうか。私も三期九年を終えようとしています。これからは新鮮な気持ちで好奇心を持って「一」から学び、最後の日がくるまで挑戦し続けたい。

当別町民生児童委員協議会70周年特別号 その1

本町における民生児童委員協議会の歴史をたどると昭和20年の終戦後から始まり今年で70周年を迎える事となりました。その節目の年を記念し特別号 その1として、歴代の広報委員長に「当時の思い出」を語っていただきました。又来年3月には特別号その2を発行予定です。

初代広報委員長

岩部 明



「民児協だより」を発刊するのは民生児童委員活動の実態を多くの方々に広く理解していただく事は勿論、各委員の仕事の記録を通じて反省確認し、自己意識を高めるためにも必要なことではなからうか、との思いで広報誌発刊について、奮闘ながら委員会に提案し了承され、広報委員を選出し編集作業を進める事になりました。

民生委員の仕事は要援護世帯の一人一人の問題に介入する事が多く相談内容等は一切他言してはならない守秘義務があり、掲載内容には多くの制約があり、それらを整理して創刊号を平成九年九月に表題を「ゆとりつちとうべつ」と命名(全戸配布)発刊し、以後各委員からの原稿協力を得ながら編集委員会は読みやすくレイアウトし充実した広報誌となりました。

なお当時の武井課長から多くのご配慮を頂き深く感謝し、このたびの七十周年記念を心からお祝い申し上げます。

二代目広報委員長

高橋 雄三



民生児童委員協議会創設七十周年、委員の皆様のゴールの無いボランティア活動に深く敬意を表します。

二十年前、民生委員の活動を町民の方々に知って頂くという趣旨で広報誌の発刊が企画されました。初代の委員長さんは、この種の広報誌の発行には大変精通されていらつしやる方で、ただ従うのみでしたが、自分が委員長を務めた数年間は困惑の連続の日々でした。それでも委員の皆様のお力添えで、何とか職責を果たせたかなと思っております。

個人情報保護法などで活動が制約される時世ですが、悩める人々の「杖となり、柱になって」の活躍を期待しております。

三代目広報委員長

佐々木 達郎



民生委員二期六年は広報委員会

に所属。後半三年は前委員長退任後、私が委員の中で一番年嵩で唯一人男性と云う事で委員長職を引き受けたものの全く日々瘦せる思いでした。しかし各委員の豊富な経験と積極的な活動のお陰でなんとか無難に経過。只々感謝の思いでした。

三年間の委員長職をなんとか務め終え痩せない内に辞任しました。が早いものでもう十余年。でも嬉しい事に今も元委員の皆様から毎年欠かさず年賀状を頂戴しております。感謝です。

四代目広報委員長

千田 良子



当別町民生児童委員協議会七十周年おめでとうございます。

平成九年に広報誌創刊号が発行され、当初の時から携わり、三代目委員長から広報委員長のたすきをわたされ、戸惑いましたが、他の委員がそれぞれの持ち味を存分に発揮して下さい、三年間、無事務めることが出来ました。

当時、原稿が届くと委員会は午前九時から午後四時までやり、発行まで七、八回の委員会を開いたものです。今、広報誌は進化して

いるように思います。広報委員の皆様のご活躍を期待します。

五代目広報委員長

島山 貞一



懐かしいですね。ゆとりつちとうべつへの原稿書きとは……。

平成十三年十二月から三期九周年、民児委員として活動しましたが、それまで仕事一辺倒だった私にとつて、この上無い充実の日々でした。

民児委員の方々の福祉への姿勢、教えられることが多く、退任後も変わること無く付合ひ出来る仲間、に恵まれたこと、人生の宝を得た思いが致します。

戦後復興に多大な役割を荷つたであろう民児委員。今後は高齢化、少子化の中で益々その重要性が求められることでしょう。

設立七十周年を迎え、民児委員各位の活躍をご期待申し上げます。

「民生委員・児童委員100周年」シンボルマーク

民生委員制度は、来年の平成29年に制度創設100周年を迎えます。民生委員が兼ねている児童委員の制度も平成29年に制度創設70周年となります。